

連続した4車線道路が整備され、交通安全性が向上

- 今回供用区間の整備により、連続した4車線道路区間が延伸
- 中央分離帯の整備により、交通事故発生を抑制
- また、実際に供用区間では、交通事故件数が半減
- 道路利用者は、4車線道路が連続したことによる交通安全性の向上を実感



■神埼佐賀拡幅事業概要図



4車線道路整備により、中央分離帯が整備され、交通事故発生を抑制



上下線の交通が中央線のみで分離



中央分離帯で上下線の交通が分離され、交差道路への右折を制限

- 中央分離帯が整備されることにより、重大事故の減少が期待されます。
- 実際に国道34号は、国道208号に比べ、死亡事故が2~3倍少ない状況となっております。中央分離帯の整備により、交通安全性が向上しています。

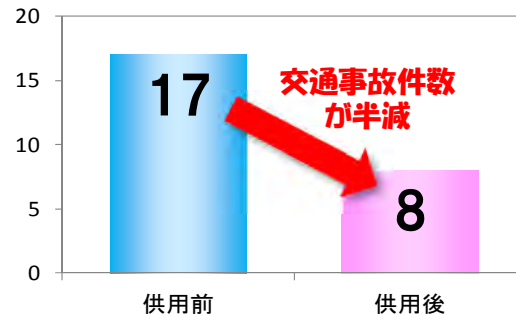
資料：警察署ヒアリング調査結果



供用区間では、交通事故件数が半減

○供用区間では、交通事故件数が年平均で約5割減少

■供用区間の交通事故件数の変化 (件/年)



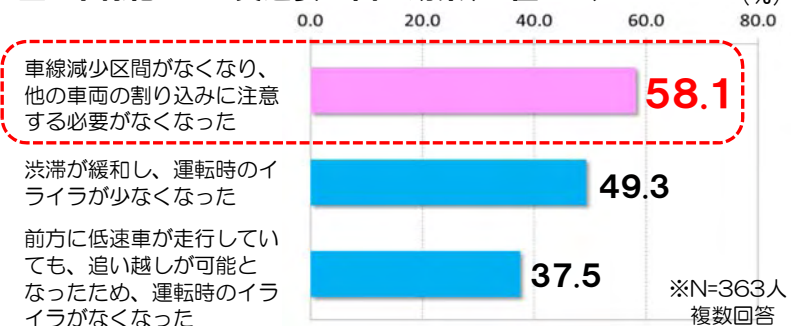
※供用前(H18.1~H22.10)の年平均 供用後(H22.11~H23.1)を年平均に換算

資料：警察署資料

道路利用者は4車線道路が連続したことによる交通安全性の向上を実感

○Webアンケート調査結果では、連続した4車線道路の整備による効果として「車線減少区間がなくなり、他の車両の割り込みに注意する必要がなくなった」が6割以上

■4車線化による交通安全面の効果(上位3つ) (%)



資料：Webアンケート調査結果(H23.2.25~H23.3.6に実施)